

アバターはどのようにして覚 醒を創り出すのか

ハリー・パルマー

あなたが高い意識に関心を持ち始めたのは、どれぐらい前のことですか？その答えを聞けば、あなたがアバターにたどり着くまでにどれぐらい多くのスピリチュアルと称するインチキをくぐり抜ける必要があったかがわかります。1970年代は善意ではあっても奇怪きまりないスピリチュアルと称するインチキがはびこっていました。覚醒を求める人たちの多くが従うようになったのは、人の注目を浴びるために突飛な行動をして自らの妄想に信憑性を持たせようとする「スピリチュアルな道の教師」たちでした。集団によってはこうした変人的行動が覚醒への道だと誤解されていました。

覚醒した視点から人間の意識を観察すると、
さまざまな可能性が現れてきます。

スピリチュアルな道の中には、害があるほど自己破壊的なものもありました。また家庭を崩壊させてしまうものもありました。スピリチュアルな道といいながら、実は誰かが個人的にお金を儲けるための道具である場合もありました。さらにスピリチュアルな道の中には、何世代にもわたって脈々と受け継がれてきた信念体系を人に徹底的に教え込むだけというものもありました。これは合意やグループ内の地位ということではとてもエゴを満足させますが、個人的には力を奪うものでした。こうしたスピリチュアルな道は全てが行き止まりでした。期待と見せかけが真の覚醒の代わりで、最後には失望と裏切りに行き着くのです。

その結果、スピリチュアルな覚醒の探求は、「UFOに誘拐された話」や「全世界規模の陰謀」、「霊と話をするチャネリング」と同じく異様な類のものとなされました。メッセージは明白でした：「可能性はあるかも知れないが、ありそうも無い」というわけです。懐疑主義が当時の主流となりました。スピリチュアルな道の探求者の支持率はがた落ちとなり、ビジネス・スーツの売り上げが急増しました。そして最大の侮辱は、スピリチュアルな覚醒とは、実はホルモン・バランスが崩れることで引き起こされる心理的状态のことではないかと言いつく人がいたことでした。

簡単に言ってしまうと、80年代後半の社会的様相は大体こんな風でした。人間の潜在能力回復運動にはまだ多少のスピリチュアルなニュアンス

は残されていたものの、そうした運動を中心となって進める人たちの大半は、心理学的用語を使うことで極力そのニュアンスを出さないようにしていました。順応して身を落ち着けることを考える方が、覚醒について考えるよりも流行っていたのです。

しかし生計を立てる仕事をする裏で、依然としてスピリチュアルな覚醒の道を歩む人たちもいました。彼らはあの意識を超えた〈気づき〉という人を夢中にさせるような経験——「私とは誰か？」という問いかけによりやく反論の余地無く答えてくれる、〈気づいている無の空間〉を経験することへの扉を開く鍵を、常に捜し求めていたのです。その鍵を発見したことがアバターの起源となりました。詳しくは「リビング・デリバレイトリ」という本の中に書かれています。

それではアバターとはどのように機能するもの
でしょうか？

アバターとは、自分の潜在意識の結論や決定そして合意（つまり人生を形作る元となっているもの）をととても短期間に突き止め、変化させることができる一連の道具ことです。それは心の中身の編集テクニックと呼ぶこともできるでしょう。これらの道具はさまざま説明されてきましたが、肝心なのはそれが効果を発揮することです。きわめて効果があるのです。人はアバターが本当に有効であることに驚いています。人は効果のある道具を見つけると、それを使うのです。

まず驚いた後で、アバター受講生さんたちは腰を落ち着けて、自分の人生の経験を不愉快にさせている態度や、自ら課した制限、そして敵意などを次々に変え始めます。

最初に自分にとって最も大切な願望の邪魔をしているものを取り除きます。そして次に自分の夢を実現するためのチャンスや、個人的な動機を創りだします。時には自分の意識を再構成するだけでなく、文字通り物理的現実を作り変えてしまうこともあります。

アバターが実際に効果を発揮するのに先立ち、まずは話を聞いて試してみることが必要です。ですから主にクチコミで伝わるアバター修了生さんたちの成功談のおかげで、アバターは永久に拡大していきます。自分の夢を実現したり経験したり創造したりするのに行き詰りを感じる人が、こうした話を聞いてアバターの道具の使い方を学ぶと決めるのは道理にかなっています。とても賢明で、実用的な決断です。救済に関する訳のわからない話など一切ありません。その人が覚醒を強く求

めているかどうかは、本当は問題ではありません。なぜならアバターの道具の使い方を学ぶための非常に実用的な理由があるからです―それは成功です。人は誰でも何かに成功したがつているものです。アバターは人に成功の仕方を教えるのです。

あなたは今ここで読むのを止めてアバターをすることもできますが、この話にはまだ続きがあります。もっと微妙なことがアバターの修了生さんたちに起きているのです―それは変容です。人に

そしてついにあなたは、自分に鍵となる問いかけをします。それはスピリチュアルな目覚めの過程にある全ての人が自問する「私はここで何をしているのか？これは本当はどういうことなのか？なぜ私はこの人生という創造に参加をしているのか？」という質問です。

よって変容は数日の間に起こりますし、人によってはかなり長い期間、何年間もかかります。

変容は2つのいずれかの形でおきます。一つ目の形は「満ち足りた状態」と呼ぶことができます。「満ち足りた状態」とは願望が十二分に満たされている状態のことです。

人が<<太字：意図的に>>自分が望むものを持つたり、経験したり、創り出したりできると、結果的に強迫観念や中毒にはなりません。結果的に満ち足りた状態になります。これは成功している人にしか完全には理解できない概念です。どれぐらいの数のさくらんぼ入りのチョコを食べることができるでしょうか？人生最高の気分をどれぐらい長く感じることができるでしょうか？どれぐらいのお金があれば十分でしょうか？ジョークとしての答えなら「あともうすこしだけ」でしょう。しかし、実際には満ち足りた状態に至る段階がありま

す。（悪い知らせは、アバター無しであなたがこの段階に到達する可能性は低いのです。）

二つ目の変容の形は、アバター修了生が道具を非常に巧みに使いこなせるようになることで、自分の願望を生み出す元となっている結論や決断、そして同意を発見し始めることです。実際に体験した人たちの洞察によれば、アバターでは自分が好きなものを何でも創ったり消したりできるので「願望自体もそうできる」わけです。

そこから「達成者」や「探究者」、「支配者」、「支持者」が「覚醒した探究者」へと変容していきます。

これはアバター修了生が、個人を超えた価値観という深いレベルで自分の意識とつながり始める瞬間です。これまでの「自分」とは、単に結論や決断や合意によって心が創り上げたものの一つに過ぎなかったことがわかります。永久に拡大する人生の展望が開けます。覚醒した視点から人間の意識を観察すると、さまざまな可能性が現れてきます。価値観が変わります。価値判断する代わりに味わい愛でるようになります。競争心は助ける喜びに変わり、敵意は慈しみに変わり、不寛容さは学びと進化へと変わります。

そしてついにあなたは、自分に鍵となる問いかけをします。それはスピリチュアルな目覚めの過程にある全ての人が自問する「私はここで何をしているのか？これは本当はどういうことなのか？なぜ私はこの人生という創造に参加をしているのか？」という質問です。

そしてアバターはその答えを知っています。それは忘れ去られた社会的な教え込みや、アイデンティティーのエゴの渴望などから来ているのではない、微かな直感的衝動として<<太字：それを知っている>>のです。（それが微かなのは、直感あなたの自由意志の邪魔をすることはせず、自分で進んでそれに委ねる瞬間を待っているからです。）

アバターは<<太字：それを感じ>>、その素晴らしい恩寵―覚醒した星の文明の創造に貢献することによって維持されているのです。